

令和元年度第1回木曾医療圏 地域医療構想調整会議	参考 資料
令和元年5月23日	1

# 参考資料

# 医師偏在指標の算定方法

$$\text{医師偏在指標} = \frac{\text{標準化医師数}}{\text{地域の人口} \div 10\text{万} \times \text{地域の標準化受療率比} (\ast 1)}$$

$$\text{標準化医師数} = \sum \text{性年齢階級別医師数} \times \frac{\text{性年齢階級別平均労働時間}}{\text{全医師の平均労働時間}}$$

$$\text{地域の標準化受療率比} (\ast 1) = \text{地域の期待受療率} (\ast 2) \div \text{全国の期待受療率}$$

$$\text{地域の期待受療率} (\ast 2) = \frac{\sum (\text{全国の性年齢階級別調整受療率} \times \text{地域の性年齢階級別人口})}{\text{地域の人口}}$$

性年齢階級別調整受療率(流出入反映)

$$= \text{無床診療所医療需要度} \times \text{全国の無床診療所受療率} \times \text{無床診療所患者流出入調整係数} (\ast 1) \\ + \text{全国の入院受療率} \times \text{入院患者流出入係数} (\ast 2)$$

(※1) 無床診療所患者流出入調整係数

$$= \frac{\text{無床診療所患者数(患者住所地)} + \text{無床診療所患者流入数} - \text{無床診療所患者流出数}}{\text{無床診療所患者数(患者住所地)}}$$

(※2) 入院患者流出入調整係数

$$= \frac{\text{入院患者数(患者住所地)} + \text{入院患者流入数} - \text{入院患者流出数}}{\text{入院患者数(患者住所地)}}$$

# 産科における医師偏在指標の算定方法

- 医師数は、性別ごとに20歳代、30歳代・・・60歳代、70歳以上に区分して、平均労働時間の違いを用いて調整する。

$$\text{産科における医師偏在指標} = \frac{\text{標準化産科・産婦人科医師数}}{\text{分娩件数}^{(*)} \div 1000\text{件}}$$

$$\text{標準化産科・産婦人科医師数} = \sum \text{性年齢階級別医師数} \times \frac{\text{性年齢階級別平均労働時間}}{\text{全医師の平均労働時間}}$$

(※) 医療施設調査の分娩数は9月中の分娩数であることから、人口動態調査の年間出生数を用い調整

# 小児科における医師偏在指標の算定方法

- 医師数は、性別ごとに20歳代、30歳代・・・60歳代、70歳以上に区分して、平均労働時間の違いを用いて調整する。
- 医療需要は、15才未満の年少人口に、地域ごとに性年齢階級による受療率の違いを調整する。

$$\text{小児科における医師偏在指標} = \frac{\text{標準化小児科医師数}}{\text{地域の年少人口} \div 10\text{万} \times \text{地域の標準化受療率比} (\ast 1)}$$

$$\text{標準化小児科医師数} = \sum \text{性年齢階級別医師数} \times \frac{\text{性年齢階級別平均労働時間}}{\text{全医師の平均労働時間}}$$

$$\text{地域の標準化受療率比} (\ast 1) = \text{地域の期待受療率} \div \text{全国の期待受療率} (\ast 2)$$

$$\text{地域の期待受療率} (\ast 2) = \frac{\sum (\text{全国の性年齢階級別受療率} \times \text{地域の性年齢階級別年少人口})}{\text{地域の年少人口}}$$

注1) 「主たる診療科」が「小児科」ではない医師も、小児に対する医療を一定程度提供している場合がある。

注2) 患者の流出入に関しては、患者住所地を基準に流出入実態を踏まえ、都道府県間調整を行うこととする。

# 産科・小児科における医師偏在指標 (H31.2.18厚生労働省公表ベース)

○産科・小児科における医師偏在指標は次のとおり。

○県全体では「相対的産科医師少数都道府県」となっており、4医療圏が「相対的産科医師少数区域」であり、3医療圏が「相対的小児科医師少数区域」となっている。

順位	産科医師偏在指標		
	下位33.3% [*]	周産期医療圏名	産科医師偏在指標
158		佐久	9.3
259	*	上小	5.6
88		諏訪	11.9
237	*	上伊那	7.1
200	*	飯伊	8.2
23		木曾	17.5
65		松本	13.1
17		大北	19.8
231	*	長野	7.4
120		北信	10.6

38	*	長野県	10.7
----	---	-----	------

順位	小児科医師偏在指標		
	下位33.3% [*]	医療圏	小児科医師偏在指標
89		佐久	105.3
228	*	上小	68.5
91		諏訪	105.2
270	*	上伊那	57.2
286	*	飯伊	49.1
186		木曾	78.6
3		松本	238.9
99		大北	100.5
206		長野	74.3
187		北信	78.4

19		長野県	112.2
----	--	-----	-------

# 外来医師偏在指標及び医療機器指標の算出式について

## 外来医師偏在指標

$$\text{外来医師偏在指標} = \frac{\text{標準化診療所医師数}}{\left( \frac{\text{地域の人口}}{10万} \times \text{地域の標準化受療率比}^{(\ast 1)} \right) \times \text{地域の診療所の外来患者対応割合}^{(\ast 3)}}$$

- 標準化診療所医師数 =  $\sum \text{性・年齢階級別医師数} \times \frac{\text{性・年齢階級別平均労働時間}}{\text{全診療所医師の平均労働時間}}$
- 地域の標準化外来受療率比<sup>(※1)</sup> =  $\frac{\text{地域の期待外来受療率}}{\text{全国の期待外来受療率}}^{(\ast 2)}$
- 地域の期待外来受療率<sup>(※2)</sup> =  $\frac{\sum (\text{全国の性・年齢階級別外来受療率} \times \text{地域の性・年齢階級別人口})}{\text{地域の人口}}$
- 地域の診療所の外来患者対応割合<sup>(※3)</sup> =  $\frac{\text{地域の診療所の外来延べ患者数}}{\text{地域の診療所と病院の外来延べ患者数}}$

## 医療機器指標

$$\text{調整人口あたり台数} = \frac{\text{地域の医療機器の台数}}{\frac{\text{地域の人口}}{10万} \times \text{地域の標準化検査率比}^{(\ast 1)}}$$

$$\text{地域の標準化検査率比}^{(\ast 1)} = \frac{\text{地域の性年齢調整人口当たり期待検査数 (外来)}}{\text{全国の人口当たり期待検査数 (外来)}}$$

$$\text{地域の人口当たり期待検査数} = \frac{\sum \left\{ \frac{\text{全国の性年齢階級別検査数 (外来)}}{\text{全国の性年齢階級別人口}} \times \text{地域の性年齢階級別人口} \right\}}{\text{地域の人口}}$$